

班に分かれ、各自が選んだ記事を発表しあう生徒 阿久根市の鶴翔高校



鶴翔高校（阿久根市）

めくる楽しさ伝える

「新聞を購読していない家庭も多いため、親しむことや、インターネットにはないページをめくる楽しさを伝えるのが狙いの一つ」と国語科の鏡山晃央教諭(53)は話す。毎週金曜日にある「NIEタイム」での発表に向けた「記事を選ぼう」の授業。班に分かれ、各自が事前に選んだ記事について興味を抱いた理由などを発表し合い、採点を学べる。と話した。

（田中公人）

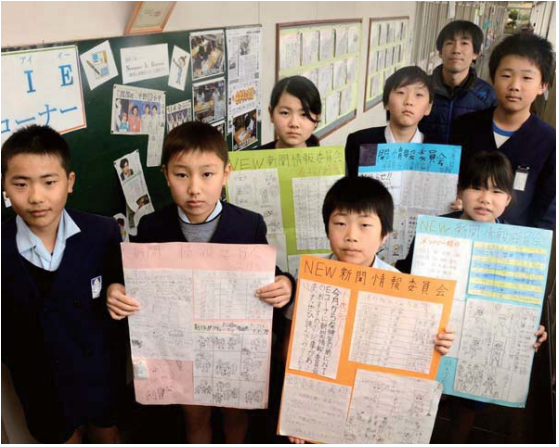
東京都の小学校が高級ブランドの制服を導入する話題を取り上げた。「みんなの意見を聞きたかった。新聞はさまざまな世の中のことを知ることができる」と話す。

進学・就職への小論文対策として進路を意識した記事の選択を指導したり、人物紹介記事をキャリア教育の題材としたりすることも。鏡山教諭は「新聞を通じ人の生き方を学べる」と話した。

かごしま

NIE実践校

学年、肩書きなど取材当時



柏原小学校（さつま町）

新設の委員会が活躍

閲覧コーナーの前で壁新聞を手にする新聞情報委員会の児童ら

さつま町の柏原小学校

実践校2年目の2017年度、児童の委員会活動に「新聞情報委員会」が加わった。メンバーは4〜6年生7人。壁新聞を作るほか、新たに設けた新聞閲覧コーナーの整理に取り組む。

壁新聞は、月1回ペーシで作成。4月は新任の先生や新入生の紹介、1月はお年玉の使い道アンケートなど、その時季に合わせた話題を取り上げている。中間縁君(5年)は「新聞作りに関わ

つてから、スポーツなどの記事をよく読むようになった」。

毎月第1水曜の朝、児童が新聞に触れる「NIEタイム」も継続中。新聞情報委員はリーダー的存在だ。閲覧コーナーには壁新聞のほか、委員が切り抜いたお薦め記事を掲示。担当の山野清文教諭(45)、若松俊彦教諭(36)は「委員会ができて、他の児童も新聞を身近に感じているようだ」と話す。

（本坊三子）